

TOEFL ITP® テスト概要


1960年代から世界で最も広く受け入れられている、国際基準の英語能力測定試験「TOEFL®テスト」ペーパー版の過去問題を再構成した団体向けテストプログラム



TOEFL®テストとは

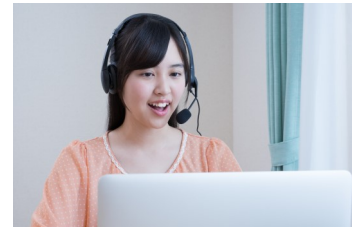
TOEFL®テストは英語を母語としない人の英語能力を測るテストとしてアメリカのETSが作成しています。受験者数は世界でこれまでに延べ3,500万人以上、世界160か国、11,500以上の大学・機関がTOEFL®テストスコアを活用しています。

TOEFL®テストは現在の英語能力を合否判定ではなくスコアで表します。主に北米の大学・大学院に入学を希望する際に、英語力の証明として必須であり、日本国内でも単位認定、大学・大学院入試、海外派遣選考、国家公務員採用試験など様々な方面での利用が増加しています。

TOEFL iBT®テスト 	TOEFL® PBTテスト 	TOEFL ITP®テスト 
コンピュータによる受験 現在の日本における公式TOEFL®テスト	マークシート形式での受験 2017年7月まで国・地域を限定して実施されていた公式TOEFL®テスト*	TOEFL®テストの団体向けプログラム マークシートのペーパー版又はオンラインのデジタル版(classroom/at home)
Reading, Listening, Speaking, Writingの4セクション	Listening, Structure, Readingの3セクション + Writing	TOEFL® PBTテストと同じListening, Structure, Readingの3セクション
スコアは0-120で表示	スコアは310-677で表示。Writingはトータルスコアと別に1-6で表示	スコアはTOEFL® PBTテストと同様に310-677で表示

TOEFL ITP®テストの特徴

- ◆ TOEFL®テストとの高い相関性と妥当性を持つ設計
- ◆ Level1で0.96、Level2で0.95という高い信頼性(ETS,2009)
- ◆ 世界では50か国、2,500以上の団体で実施、受験者80万人以上
日本では年間約22万人以上が受験、500以上の団体で活用
- ◆ 項目応答理論 (IRT) に基づいて作成され、英語力の継続的な測定が可能
- ◆ TOEFL iBT®テストの約6~7分の1の低料金
- ◆ アメリカ国内外を問わず世界中の教育機関で利用
日本では、大学、大学院、高等学校、官公庁などアカデミックな英語力を測る必要のある教育機関等において多数利用
- ◆ 国際標準規格に照らしたレベルの把握が可能※
※Level 1はCEFR:A2~C1を、Level 2はCEFR:A2~B1を測ることができます



TOEFL®テストを受験する「意義」

TOEFL®テストは、英語圏の高等教育機関で教育を受けるだけの英語力があるかどうかを測定することが目的で開発されたテストであるため、欧米での基本となるCritical Thinking (批判的/論理的思考) に基づいた論理的な展開、考え方で構成されています。グローバルビジネスの場での交渉・商談や、世界的研究成果の発表・論文作成といったアカデミックな場でも、そのような考え方は英語を活用するための根本となっています。そのため、TOEFL®テストは世界を見据えている生徒、学生にとって「入り口」のテストと言ってもよいでしょう。具体的な留学の予定がなかったとしても、TOEFL®テストを通じてこのような世界基準の論理的な展開、考え方を学び理解し実践していくこと自体、学習者にとっての意義となります。

構成・時間配分・問題数・スコア

Level 1 (中級から上級まで、CEFR : A2~C1)

	セクション	時間	問題数	内容
Level 1	Section 1 Listening Comprehension	約35分	50問	北米で話されている標準的な英語を聞き取り、理解力を測定。Part Aでは 2人の話し手の会話、Part BではAより少し長めの会話、Part Cでは短めの話聞き、4つの選択肢から解答を選びます。
	Section 2 Structure and Written Expression	25分	40問	標準的な文章表現や文法の知識を測定。前半は文中の下線部に正しい語句を補い文章を完成させる問題、後半は文章中の誤った表現を選択する問題。
	Section 3 Reading Comprehension	55分	50問	大学の授業で取り上げられるようなトピックを用いて、読解力を測定。様々な学術分野から出題されますが、問題を解くにあたって専門知識を必要とするものではありません。
	TOTAL	約115分	140問	スコア 310-677*

Level 2 (初級から中級まで、CEFR : A2~B1)

	セクション	時間	問題数	内容
Level 2	Section 1 Listening Comprehension	約22分	30問	北米で話されている標準的な英語を聞き取り、理解力を測定。Part Aは短文、Part Bは2人の話し手の会話、Part Cでは短めの話聞き、4つの選択肢から解答を選びます。
	Section 2 Structure and Written Expression	17分	25問	標準的な文章表現や文法の知識を測定。前半は文中の下線部に正しい語句を補い文章を完成させる問題、後半は文章中の誤った表現を選択する問題。
	Section 3 Reading and Vocabulary	31分	40問	前半は短文の単語問題、後半は大学の授業で取り上げられるようなトピックを用いて、読解力を測定。様々な学術分野から出題されますが、専門知識を必要とするものではありません。
	TOTAL	約70分	95問	スコア 200-500*

※TOEFL®テストは、ペーパー版から現在のインターネット版を通じて、テスト相互のスコアに、非常に高い相関性、妥当性を持つテストとして設計されています。TOEFL ITP®テストはペーパー版TOEFL®テストで使用された問題を使用し、0.95以上という高い信頼性を持つテストとして運用されています。

求められるTOEFL ITP®テストスコア

海外留学 (学部レベル) -----TOEFL PBT/ITPテスト500 (TOEFL iBTテスト 61相当) 以上
 国内大学院進学-----TOEFL PBT/ITPテスト500 (TOEFL iBTテスト 61相当) 以上
 海外留学 (大学院レベル) -----TOEFL PBT/ITPテスト550 (TOEFL iBTテスト 80相当) 以上
 ビジネスで「役に立つ」ことを目標とするレベル-----TOEFL PBT/ITPテスト550 (TOEFL iBTテスト 80相当) 以上
 ビジネスの専門分野において標準となるレベル-----TOEFL PBT/ITPテスト600 (TOEFL iBTテスト100相当) 以上

卒業してからも英語を使っていくことを考え、まずは500 (TOEFL iBT®テスト 61相当) を目指してみましょう。

【追加オプション】Speaking section

TOEFL ITP®テストデジタル版の追加オプションとしてご実施いただけます。



1 ETSが開発した自動採点システム「Speech Rater®」による正確な採点

- ・TOEFL iBTテストでも採用されているSpeech Rater®による信頼性の高い採点
- ・人に頼らない自動採点システムが公平な採点を実現し、世界基準でスピーキング能力を証明することができる
- ・テスト終了直後にスコア(点数及びCEFRレベル)を確認できる



15分

Speaking Sample Test
(ETS Webサイトへ)

2 受験人数を問わず短時間で測定、幅広いレベルに対応

- ・Speakingセクションの問題数は4問、所要時間は約20分
- ・測定レベルはCEFR A2からC1まで対応
- ・少人数からクラス単位、学年全体のような大人数での受験可能

簡易な統合技能型の問題構成

- 1問目：読み上げ (問題のアナウンスを聴く)
→1分考える練習→1分で読み上げ
- 2-3問目：出された問題について30秒で考え45秒で考える
- 4問目：答えを考えるにあたっての指針を読む
→会話を聴く
→指示に基づいて答える

Score Range : 31-68

Test Time : 約15分間

3 TOEFL iBTテスト受験に向けたステップアップ

- ・アカデミックな環境で話す能力を最適な問題設定で試すことができる
- ・TOEFL ITPテストで測定するListening/ReadingにSpeakingセクションを加えることで、リーズナブルかつ効果的なTOEFL iBTテスト受験準備ができる

※Speakingセクションは、TOEFL ITP®テスト デジタル版の追加オプションです。(ペーパー版では受験できません。)

※Speakingセクションのみの受験はできません。

TOEFL®テストスコア能力表

※TOEFL ITPテストのスコアはTOEFL PBTテストのスコアにそのまま置き換えることができます。(TOEFL iBTテストスコアは目安です)

CEFR	TOEFL iBT 0-120	ガイドライン	必要とされる スコア	TOEFLテストスコアデータ		TOEFL PBT 310-677 ※TOEFL ITP
				TOEFL iBT 0-120	TOEFL ITP L1 310-677 L2 200-500	
C1 95- 627-	100-120	ビジネスや日常生活、大学生活を送る上で不自由なくコミュニケーションができる。テレビやラジオ、会議や講義で普通に話すネイティブスピーカーの言葉も困難なく聞き取れる。ビジネス、生活面、大学の授業等で支障なく様々な文章を読んだり、話を聞いたりすることができ、ネイティブスピーカーと遜色なく議論もできる。またプレゼンテーションも充分に行え、そこでの議論や意見を聞いて、もう一度自分の考えを組み立て直すことも可能。読み手を意識した、正確でわかりやすい論理的文章を書くことができる。米国のトップレベルの大学(院)入学に求められる高度な英語能力を保有している(例:ハーバード、スタンフォード等)。	↑ 大学院留学			600-677
B2 72- 543-	79-100	ビジネスや日常生活、大学等の場面で、自分の分野以外に関する事柄も理解することができ、個人差はあるが、相手とジョークを交えつつ、柔軟にコミュニケーションを取ることができる。テレビやラジオ、会議や授業で普通に話すネイティブスピーカーの言葉も聞き取れる。議論や様々な話題にも充分についていけ、質疑応答も可能。様々なトピックに関して、よく構成された正確な文章を書くことができる。	↑ 学部留学	88		550-600
B1 42- 460-	61-79	日常生活でのコミュニケーションはほぼ支障はない。ビジネスや大学等の場面では、自分の専門分野であれば、具体的・抽象的なトピックにおいて、技術的な事柄も含め、その要点を十分に理解できる。会議や授業で話題になっていることに対し、相手を見て具体的な例を挙げて自分の考えを説明することができるが、語彙の部分で不足を感じることもある。自分の興味のある題材・話題に関して明確・詳細な文章を書くことができる。		73		500-550
A2 337-	45-61	ビジネス、学校、日常生活において、一般的によく知られた事柄に関しては文面や話の中でその要点をつかみ、自分の考えを発信することも可能。通常の日常生活に支障はない。また自分に興味のあること、知識のあることに関しては、巧拙の差はあるが自分の考えをまとめてプレゼンを行ったり、複雑ではないが具体的な文章を書くことができる。		世界の受験者の平均点	L1 484.55	450-500
	32-45	日常的なこと、仕事に関する簡単な文章を読むことができる。通常の会話で、自分と繋がりが深いもの(家族、買い物、自分の住んでいる所、仕事、専門)に関して、簡単な言葉でコミュニケーションをすることが可能。また、「But」「Because」のような接続詞を使って簡単な文章を書くことができる。		日本の受験者の平均点	L2 403.76	400-450
	19-32	日常よく使われる表現や基本的なフレーズを用いて、必要最低限のコミュニケーションができる。身近なこと(自己紹介、どこに住んでいるか、自分の知っている人、持ち物等)であれば質問をしたり、答えることもできる。ゆっくり話してもらったり、人の手助けを借りて、相手と意志の疎通が可能。短い文節で単純な文章を書くことはできる。		日本の大学生の平均点	日本の大学生の平均点	350-400

・上記のガイドラインはCEFRを基準におおよその目安を示したものです。本資料の引用・転載を禁じます。
 ・TOEFLテスト主催団体である米国ETSは上記のようなガイドラインは作成していません。
 ・評価は各自の学習状況や、環境によっても異なります。また、各利用団体のカリキュラム等によっても異なる場合があります。
 ・日本国内外の大学・大学院や機関・団体のガイドラインは各々異なるため、実際に要求されるスコアは各自ご確認ください。
 ・スコアの有効期限はテスト日より2年間であり、それ以降時間が経過した場合、英語力は変化することをお含みください。

*参考
 ・Test and Score Data Summary TOEFL iBT® Tests 2021
 ・TOEFL ITPテスト平均点 (April 2021-March 2022) Level 1 / Level 2

英語上達への道 ~モデルケース：留学~

TOEFL®テストを使って英語を上達させよう！
 この流れを参考に、留学を目指してください。



留学実現！！



TOEFL ITP®テストスコアで
応募可能な
協定校留学へ！

STEP4 TOEFL iBT®テストを受験しよう
公式スコアを手に入れる

STEP3 TOEFL iBT® Complete Practice Testを利用しよう
模擬試験でTOEFL iBT®テスト受験準備とスコア予測

STEP2 目標設定をしよう
上記の能力表でTOEFL iBT®テストスコアを予想し目標を設定

STEP1 TOEFL ITP®テストを受験しよう
数回受験して実力を知り、TOEFL®テストに慣れる。まずは目標500！

* TOEFL ITP®テストとTOEFL iBT®テストの違いについては、1ページ参照。
 * TOEFL iBT® Complete Practice Testとは、自宅できるスコアも出るTOEFL iBT®テストのオンライン模試。出題形式も画面表示も操作も本番同様。

TOEFL ITP®テスト学習方法



TOEFL ITP®テストの受験が決まったら公式教材で対策！

www.officialtestprep.jp/fs/officialprep/c/itp

TOEFL ITP®テスト公式教材セットも充実！
自習でのTOEFL ITP®テスト受験勉強に最適。
ETS制作過去問題集はVol.1, Vol.2ともに、
実際のテスト問題がそれぞれ2セットずつ収録
本試験までに実力と自信をつけて臨もう。



TOEFL ITP®テスト受験者専用ページ

www.toefl-ibt.jp/toefl-itp/testtaker/

TOEFL®テスト全般のテスト内容やスコアの意味、
勉強方法などを掲載。

デジタル受験者向けのマニュアルページも掲載
受験者専用ページにアクセスして、どんな問題か
確認してから本番に臨もう！



TOEFL ITP®テストサンプル問題

www.ets.org/toefl_itp/test_preparation/sample_questions/

サンプル問題にアクセスして、
どんな問題か確認してから本番に臨もう！

※ Level 1、Level 2とも、
ETSのサイト上でご覧いただけます。



Listeningで利用される
実際の音声も確認可能です。



TOEFL® Web Magazine

ej-webmagazine.com/

受験者の皆様からよくいただくTOEFL ITP®テストに
関する質問に、ETS公認トレーナーが答えるコーナーや、
TOEFL ITP®テスト受験者からの体験談など掲載中！
その他インタビュー記事など、英語学習・受験準備に
役立つコンテンツが盛りだくさん！



TOEFLテスト日本事務局 公式SNS



Twitter
@TOEFL_Japan



LINE
@toefl



YOUTUBE
@TOEFL

お問合せ先

TOEFL ITP®テストは団体対象のテストプログラムのため、個人または個人の集まりでのお申込み・受験はできません。また、
受験者個人の方からの お問合せにもお答えすることができません。TOEFL ITP®テスト実施状況や予定については所属する
団体（大学、高校、企業など）にお問合せください。

留学・海外研修 → 国際交流センター、国際交流課、英語の教員など
資格試験 → 生協、キャリアセンター、エクステンションセンターなど

ETS Japan合同会社

ETS JapanはTOEFL®テストの開発・運営団体であるETSの日本での子会社として2021年5月に設立されました。

2021年6月15日よりTOEFL®テスト日本事務局として、TOEFL®テスト広報活動、TOEFL ITP®テストの運営、TOEFL® Practice Onlineを含むTOEFL®テスト公式
準備教材、Criterion®の総合取扱機関として運営を行っています。

ETSロゴ、TOEFL、TOEFL iBT、TOEFL ITPおよびCriterionはETSの登録商標であり、ETS JapanはETSの許諾の下に使用しています。



JAPAN
A subsidiary of ETS, the creator of the TOEFL® test

[TOEFL®テスト日本事務局] ETS Japan合同会社
2023.02

